

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502496), 法人名 (有限会社 時館), 事業所名 (グループホームあいある石山(大地)), 所在地 (〒005-0842 札幌市南区石山2条4丁目1-50), 自己評価作成日 (令和2年1月13日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月2日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様・家族様が笑顔で安心して生活ができ、尊厳のある生活を支援します。
○地域・外部との交流や趣味・レクリエーション活動を行い、生き生きとした生活ができるように支援します。
○入居者様ご自身で行える所はできるだけ継続していき、ADLが維持できるように支援します。
○ご本人家族様と職員の信頼関係を築き慣れ久しんだホームでの生活の継続性、看取りの意向に寄り添います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502496-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月31日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路に面しており、バス停からも近く、周辺は、非常時の一時避難場所や、行事では駐車場を借り受けている寺院や商店、コンビニ、小学校、消防署等が建ち並び、生活に便利な住環境にある。事業所内には、独自の理念と5箇条からなる介護指針を掲げており、職員は折に触れ、ケアの方向性を確認し、利用者と向き合っている。面会時や行事での来訪時、家族アンケートで利用者や家族の要望の汲み取りに努め、業務の改善を図っている。運営推進会議には、他のグループホーム管理者や利用者の友人の出席があり、多角的な意見収集ができています。町内会長には、不意の外出者を長時間に渡り探して頂いたり、震災時では、公的避難場所への移動に協力を得ている。外出行事の企画を徐々に増やし、利用者の五感刺激や気分転換に繋げている。新人職員さんから「職場が楽しい、困ったことがあればすぐ相談できる」との言葉があった。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を日勤者・管理者で唱和、事務所と各フロアーに掲示している。	法人理念を共有し、さらに、独自の事業所理念と介護指針を策定している。管理者は、新人研修で理念の重要性を説き、毎朝の唱和等で、理念がケアに反映されているかを振り返る場面作りに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し盆踊り餅つき大会街路花植えに参加。子供たちが町内を練り歩く子供神輿はホームへ回って頂いている。地域の保育園の園児・支援学校の子供たちが遊びにきてもらい交流している。	隣接の寺院からは、避難場所や、行事には駐車場を借り受けている。管理者は、新年会に参加するなど、さらなる地域交流に努めている。利用者は、神社祭や保育園の子供神輿の披露に目を細め、音楽等のボランティアや高校生との交流も、笑顔になる場面になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援学校の生徒・父兄様に認知症についての支援等を伝えている。地域の資源回収(段ボール)に貢献。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活状況やサービスについての報告を行っている。町内会長やご家族生より提案や意見をミーティング等で再度話し合い、サービス向上に努めている。	同業者の管理者や利用者の友人を含めた関係者の出席を得て、年6回開催しており、現状報告後に質疑応答が行われている。事故の内容説明と今後の対策、看取り支援、地域の高齢者の実態等に、意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の連携が重要であることを理解している。連絡会や研修会等の参加により、状況の変化・知識を習得している。また、電話による相談等もおこなっている。	行政主催の管理者連絡会やケアマネ連絡会では、研修や法改正等の情報等が得られ、運営やケアの質確保に生かしている。困難事例(徘徊、施設等)を相談したり、事故報告や認定調査等でも、担当者と事業所の実情を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加しており、身体拘束に伴うリスクを理解している。また会議内での勉強会を通して身体拘束をしないケアについて話し合いをして取り組んでいる。	身体拘束適正化については、指針を整備している。2ヵ月毎の委員会や年3回の内部・外部研修等で、不適切ケアの具体例やその弊害を学んでいる。着替えや入浴時でも身体状況を確認するなど、職員の意識統一に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加してまた会議等で勉強会を実施、発生を未然に防ぐため、声掛け、コミュニケーション等に対しても職員同士注意をしている。職員との個別面談で啓発している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の活用されている人は3名様。日頃から利用者様の意向を理解し後見人・家族様にその旨を伝え関係を維持できるように支援している。疑問点があれば理解できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、ご理解して頂ける様に努めている。また不明な点があれば随時対応している。退去時トラブルはないように説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様と話す機会を設けている。その他にも、ご家族様とは密に連絡を取り、意見を頂く事も多々ある。ミーティング等で、その意見を話し合い、運営に反映させている。	家族には、避難訓練や誕生会、行事など、利用者の様子を写真に納めた「あいある石山通信」と、担当職員による手書きのメッセージを毎月郵送している。年1回、家族の意見を運営に反映できるようにアンケートを実施し、業務改善に生かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回面談や自己評価を実施、面談を行っており、提案・意見を会社の会議等で報告している。ミーティング時、会社側の職員も参加し内容を把握している。個人的にも相談や提案を行える環境もある。	管理者は、日常業務は基より、年2回の個別面談で自己目標の進捗度を確認したり、意見や要望を傾聴している。法人職員も年数回来訪し、個人的な要望も含めて、職員の実情を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況の評価や面談を行っている。ひとり一人のやりがいを持つように役割や担当を決め有給利用や退社時間の厳守に努めている。個人の目標等を達成できるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は皆が参加理解ができるように会議等で実施している。外部研修は研修の機会が得られるようにしている。資格を取れる環境も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でプラチナ会・ケアマネ交流会等があり定期的に交流を深めている。また、他のグループホームの運営推進会議に参加させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、管理者・ケアマネは情報収集を元に必要なニーズの把握に努め、カンファレンス等で職員周知している。利用者様がホームの生活に馴染むように不安なこと等を会話・行動・様子を察しながら個別対応で対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学中困り事や要望等をできるだけ伺い安心できる様対応している。契約時に理解できるように優しい言葉で行っている。調整が必要な要望や意見等の返答はできるだけ早めに報告するようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の要望を伺いどのような支援が必要なのかを見極め、家族様と相談しながら対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃よりご本人ができる事を探し家事等のお手伝いをして頂いている。本人の能力に応じて一緒に行っている。させる介護に陥らないように心掛けでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお便りや面会・電話等でご本人の状態を伝えながら家族様に協力できる所はお願いすることもある。共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊ができるようにご家族様と協力して支援をさせて頂いており、電話の支援を継続している。受診の帰りにご自宅の場所へ立ち寄り、親戚の方々との面会時にはゆっくりと過ごして頂けるように支援している。	利用者の馴染みのスーパーや自宅付近を、ドライブがてら一緒に訪れている。利用者の帰宅願望を叶えたい家族の意向に応じ、遠方の家族が一堂に会した事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体となれるレクリエーションを提供したり安心して生活ができる席の配置にしており、支え合えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、関係を終わらせる事なく、電話等でお声をうかがっている。いつでも相談して頂けるよう、心がけて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に添えるように努めている。はっきりと意思表示されない方には家族様から情報とその方が考えているであろうと思われる希望を取り入れている。	一人ひとりの動作や表情、会話から些細な変化にも気付き、その人らしい暮らしが実現できる取り組みが行われている。利用者の要望に応じられるよう、家族の協力を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いながら、家族様やご本人の情報を元に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況の把握に努め記録し職員共有。また有する力等もセンター方式を利用しながら本人様の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い現状把握して原案の介護計画を作成している。介護計画は家族様の意向・希望を聞き取りカンファレンスを実施して計画を作成する。基本6か月の見直ししている。	ケアプラン作成時は、利用者とは関わりの中で、家族からは更新前に意向を確認している。利用者や家族の望む支援内容になるよう、看護師の意見を含め職員全員で検討している。ケア記録にプランの実践をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さを職員に説明・実践している。体調の変化や特記事項・アセスメント等必要時記録を振り返り把握している。介護計画も見直し反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだからできる個別対応を心がけ家族様へ密に連絡する。支援の充実を図る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年町内会が実施しているゴミ拾いや花植えに職員と一緒に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向を伺いながら受診対応や往診が受けられるように支援している。かかりつけ医と往診医が良好な関係を築けるように報告を行っている。不明な点は電話で指示を頂き、対応している。	医療機関は、利用者や家族の選択を尊重している。24時間連絡体制の協力医による月2回の往診や、週4回の看護職員の健康チェックが行われている。かかりつけ医の受診は、基本的に家族支援としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化を報告し助言をうけたり処置をして頂いたり医療や看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より、病院関係者と情報交換、相談、報告を密に行っている。入院時も、入居者様の様子を把握して状況に合わせて調整、早期退院につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より家族様に説明、契約時の時点で終末期について考え、意向を伺っている。常に状態を報告を行い主治医と連携を図りながら家族様・職員で話し合うように取り組んでいる。	重度化や看取りについての指針を説明し、利用者や家族の意向を確認している。主治医の判断と家族の改めての意向確認を経て、看取り支援の開始としている。家族から感謝の言葉があり、職員は、ケアを通して学びを得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を行い繰り返し説明している。マニュアル等もあり理解している。急変時救急車を要請同行している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しており消防署より指導を受けている。運営推進会議で町内会の方に協力お願いしている。	年2回の夜間想定火災避難訓練と、水害想定1階から2階への垂直避難訓練を実施している。隣接の寺院を一時避難場所とし、法人の協力も得られている。災害を議題にした市民公開講座に参加するなど、危機意識を高めている。	非常時には、地域の協力が必要になることから、避難訓練に地域住民の参加要請と、あらゆる災害を想定しての訓練や備蓄品の充実を検討しているので、その取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するような声かけ、入浴・排泄時の羞恥心の配慮・入室時のノック等の対応を心がけている。命令口調・ちゃん呼びは避けるようにしている。	利用者への呼称は、「さん」付けとしている。管理者は、不適切な言葉に対して助言をし、正しい理解に繋げている。理念に人格の尊重を掲げており、その実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を無理強いせず引き出す工夫、自己決定ができるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて、利用者様のタイミングで行動してもらうよう支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら定期的な理美容を利用し男性は髭剃り、その日の衣類選びの支援を職員と一緒にこなしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは配食サービスで決まっているが、月に数回手作りメニューと行事食を企画している。利用者様の希望を伺い反映できるメニューづくりをしている。	食事は業者から届けられているが、月2回程、誕生日に好物を作りケーキ等でお祝いをしたり、チーズフォンデュにポテトを絡めるなどおやつを作っている。時には、裏庭で焼肉、レストランでバイキング、出前寿司等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は・形態は医師と相談個別に合わせて提供している。食事量・水分表を作成して日々の栄養・水分確保の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日昼食前に口腔体操をしている。ケアが必要な利用者様には介助で口腔体操・口腔ケアを実施している。必要時歯科往診を受けれるように支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してタイミングをみてトイレの声掛けしている。失敗があった場合はさりげなく清潔の保持に努めている。	自力でトイレ使用や声かけ、誘導によりトイレで排泄など、利用者の状態に応じた支援を行っている。家族から衛生用品使用の要望がある時は、職員間で話し合い夜のみ使用とするなど、職員の努力が続けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行っている。水分量適切な運動に心かけている。必要に応じて医師に報告排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が原則になっているが、入浴を拒む利用者様は日にちや職員の変更。入浴希望があればご本人に寄り添った支援を心がけている。	入浴は週2回を基本とし、同性介助の要望を受け止め、状況によっては2人介助を行い、入浴剤の色を楽しみながら湯船でゆったりできるよう努めている。会話の中で、買い物に行きたいなどの要望が聞かれ、すぐに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝は時間を自由にされ安眠できるように支援を行っている。定期的に見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や家族様からの薬の説明と処方箋の確認と薬の変更職員間で共有状態の変化を観察して家族様・医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割をみつけたり趣味嗜好を考えたいレクリエーションを行い気分転換になるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬は日常的な外出は厳しいが春から秋まではご本人の希望がある場合近隣の散歩を毎日している。定期的なドライブや行事で外出機会を設けている。	天気の良い日は周辺を散歩したり、ピーマンやトマトなどを植えている菜園の水遣りを行っている。札幌市内をドライブを兼ねて買い物や外食、花見や紅葉観賞、車窓からの雪祭り見物を企画し実行している。祭りなど、地域行事にも足を運び、気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る入居者はお金を所持しているが、事務所で管理して必要に応じて使用できるようにしている。買い物等は入居者様に支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望がある時は、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせホールの掲示物は随時変更している。利用者様の作品、行事の写真を掲示。季節感を伺える飾り付けになっている。(クリスマス・正月・七夕・節分・ひな祭り等)また気候に合わせエヤコン・加湿器・扇風機を利用しながら都度心地よく過ごせるように工夫している。	ユニットそれぞれに設えの違いはあるが、居間にはエアコンが完備しており、過ごしやすい環境にある。行事写真や観葉植物、利用者と一緒に作った折り紙や、職員手作りの紙粘土の作品を飾っている。季節毎の装飾にも工夫を凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ・廊下に椅子を置いたりして一人の空間・他者との空間を提供工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや仏壇等を持参されて生活している。またご自分で作られた作品も居室に飾っており、心地よい空間で過ごせるように工夫している。	居室には、ベッドやクローゼット、カーテンを設置している。入居時に、慣れ親しんだ物品の持ち込みを勧めている。タンスやテーブル、写真、飾り物などが動線に配慮して置かれており、安心安全な居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーになっており、手すりも設置している。できることが長く続くように支援している。福祉用具を使用して安全にできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		